

三菱自動車工業株式会社

株主のみなさまへ



平成21年度(2009年度)中間のご報告
2009年4月1日～2009年9月30日

株主通信 ROUTE

Drive@earth



三菱自動車企業理念

大切なお客様と社会のために、
走る喜びと確かな安心を、
こだわりをもって、
提供し続けます。

当社は三菱グループ共通の経営指針である「三綱領」*の精神を受け継ぐとともに、当社の存在意義と進むべき方向を明確にするため、「三菱自動車企業理念」を制定しています。全ての企業活動はこの企業理念に基づいて進めています。

*「所期奉公」、「処事光明」、「立業貿易」

目次

ごあいさつ	1
決算の概要	2
環境への取り組み	4
人と、社会と、地球と、共に生きる クルマづくりに向けて	5
エコカー減税対象車の ラインアップを拡大	9
新型車のご案内	10
財務諸表(連結)	11
会社の概要/役員	13
株主メモ	14

ごあいさつ



株主の皆さまにおかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、誠にありがとうございます。

2009年度第2四半期累計期間(2009年4月1日から2009年9月30日まで。以下、上半期)は、各国政府による景気刺激策・金融緩和政策の需要下支え効果もあり最悪期は脱したものの、景気回復に力強さはなく、当社を取り巻く事業環境は依然として厳しい状況が続いております。このような中、当社では昨年来、徹底した費用削減に取り組み、当上半期の業績は、損益は計画線上で進捗しましたが、前年同期比では大幅な減収・減益となりました。

配当につきましては、株主の皆さまには大変申し訳なく存じますが、当上半期も実施を見送らせていただきました。何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

当社は、2009年7月に予定通り新世代電気自動車「i-MiEV(アイ・ミーブ)」の納車を開始するとともに、10月には第41回東京モーターショーで、新しい電気自動車のラインアップとして2車種のコンセプトカーを提案しました。クルマの量産化が始まって約100年が経った今、電気自動車は、次の100年の中心的役割を果たす頂点技術であると認識しており、株主の皆さま、お客さま、そしてパートナーの皆さまとともに次の100年を走り始めました。

2009年度末に向かつては、引き続き全社一丸となって「工夫」を凝らし、確実に当期利益の黒字化を達成したいと考えております。

どうか皆さまにおかれましても、今後とも倍旧のご支援・ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

2009年12月

取締役社長

益子 修

決算の概要

2009年度上半期の実績

厳しい販売環境ながらも、損益は計画線で進捗

2009年度上半期の販売台数は、厳しい販売環境が続くなか、日本ではエコカー減税や補助金の効果が徐々に浸透し、8月、9月は前年同月比で増加に転じました。またドイツ、中国、カナダ、フィリピン等でも前年同期を上回りましたが、その他の国で苦戦が続き、全体では前年同期を26%下回る44万5千台に減少しました。さらに為替の円高影響も加わり、連結売上高は、前年同期比で53%減少の5,730億円となりました。損益は、2008年後半から進めている販売費や労務費などの費用削減を全事業領域において徹底的に推進し

ましたが、販売台数の減少などにより営業利益、経常利益、当期利益はそれぞれ325億円、342億円、364億円の赤字と前年同期に比べ大幅な減益となりました。一方、計画対比では、販売台数で期初の計画を1万8千台上回り、損益も概ね期初の計画線で進捗しています。また、営業利益を四半期ごとに見ますと、第1四半期^{※1}の営業利益は296億円の赤字でしたが、第2四半期^{※2}は29億円の赤字と267億円改善しております。

※1 第1四半期(2009年4月1日から2009年6月30日まで)

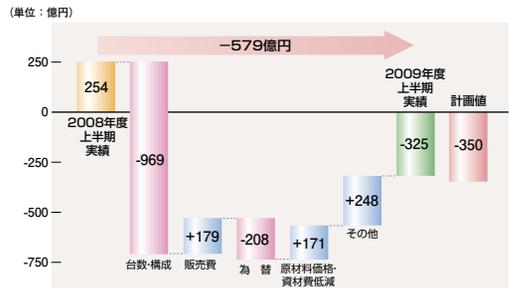
※2 第2四半期(2009年7月1日から2009年9月30日まで)

2009年度上半期実績

(6ヵ月累計、前年同期比)

	2008年度 上半期実績①	2009年度 上半期実績②	差 ② - ①	2009年度 上半期計画 (2009年4月27日公表値)
売上高	12,140	5,730	↓△6,410	6,000
営業利益	254	△325	↓△579	△350
経常利益	209	△342	↓△551	△400
当期利益	128	△364	↓△492	△450
販売台数(小売)	603	445	↓△158	427

2009年度上半期営業利益 変動要因分析 (前年同期比)



決算の概要

2009年度通期業績見通しと下半期の取り組み

業績見通しを据え置き、当期利益黒字化を目指す

2009年度通期の業績見通しは、期初に発表した販売台数93万2千台、営業利益300億円、当期利益50億円の目標を据え置き、その達成に向け着実に取り組んでいきます。日本ではエコカー減税対象車種を15車種に拡大するほか、2010年2月に「新型コンパクトSUV」を投入、またイメージを刷新した「アウトランダー」を2009年秋から欧州、北米など海外市場へ順次投入します。アジア・その他地域では、中国、タイ、フィリピンで「新型ランサー」の現地生産を開始し、中国では「アウトランダー」の2リッター仕様を追加投入する予定です。これら新型

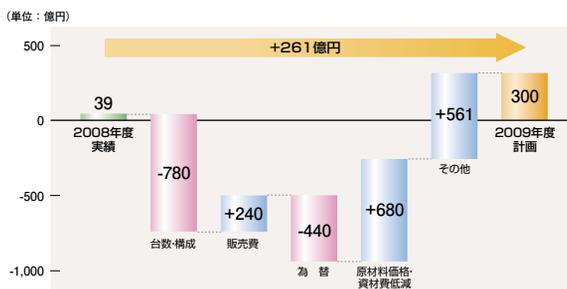
車の投入効果も織り込み、下半期の販売台数は、上半期に対して4万2千台増の48万7千台を販売する計画としました。現在、グローバルに見ますと市場によって販売の回復度合いに濃淡はありますが、在庫圧縮のための生産調整も目処がついたことから、一直体制(昼勤務のみ)の操業としていた国内外の主要工場(岡崎工場、水島工場、タイ工場)で二直体制(昼夜勤務)へと復帰し、回復基調にある市場での需要に応えます。

さらに、引き続き費用削減・コスト低減を徹底することで、損益の改善を図り、当期利益の黒字化を目指します。

2009年度業績見通し

	2008年度実績	2009年度計画	差
売上高	19,736	15,000	△4,736
営業利益	39	300	+261
経常利益	△149	150	+299
当期利益	△549	50	+599
販売台数(小売)	1,066	932	△134

2009年度営業利益見通し 変動要因分析 (前年度比)



環境への取り組み

EVで先駆け、「人と地球との共生」を目指す

三菱自動車は、2009年6月5日の世界環境デーに、「三菱自動車グループ環境ビジョン2020」を策定し、“EV^{※3}で先駆け、「人と地球との共生」を目指す”ことを、2020年に向けた具体的な数値目標とともに発表しました。

また、本年7月より販売を開始した「i-MiEV」は、既に約700台の納車を終え（10月末時点）、2010年度からはいよいよ個人のお客様にもお乗りいただきたいと思っております。日本に続き、イギリス、香港、ニュージーランドなどの右ハンドル市場、さらに2010年末からは欧州11カ国への本格出荷を予定しており、

電気自動車の普及をグローバルに加速させていきたいと考えています。

なお、本年10月に開催されました第41回東京モーターショーでは、2013年に市場投入を目指すプラグインハイブリッド車のコンセプトモデル「Mitsubishi Concept PX-MiEV」をはじめ、様々なお客様ニーズにお応えするEVラインアップをご提案しました。

今後も環境に配慮した社会づくりの先頭を走る意気込みで、挑戦し続けたいと考えています。

※3 EV(Electric Vehicle): 電気自動車、プラグインハイブリッド車などの電動車両

「三菱自動車グループ環境ビジョン2020」の取り組み内容

当社は、「三菱自動車グループ環境ビジョン2020」の実現に向けて「商品・技術」「事業活動」「社会との協働」の3つの観点から、当ビジョンの目標年である2020年までに達成を目指す具体的な目標値を定め、着実に取り組みを推進していきます。

商品・技術

総生産台数におけるEVの生産比率20%を目指す
製品（新車）使用時のCO₂排出量50%低減を目指す

事業活動

EVの普及を目指した事業活動を推進
生産におけるCO₂排出量20%低減（原単位）を目指す

社会との協働

お客様や社会とともに、新しいEV交通社会を実現
地域社会との連携による地球環境保護への貢献

2020年度目標

人と、社会と、地球と、共に生きるクルマづくりに向けて

電気自動車の可能性を広げる

新開発の「三菱プラグインハイブリッドシステム」を搭載した 「MITSUBISHI Concept PX-MiEV」

PX: Plug-in hybrid, (X) cross-over の意味
MiEV: Mitsubishi innovative Electric Vehicle

Concept
PX-MiEV



MITSUBISHI Concept PX-MiEV



POINT!

ふだんは
モーターで走る
電気自動車

街中では…モーターで走る

通常(中・低速)走行時: EVモード
駆動用バッテリーの電力で
フロントモーターを使い、FWDで走行。

◎スリップを感知すると
リヤモーターも使い、4WDで走行。

電池が減ったら…エンジンで発電し、モーターで走る

バッテリー残量低下時: シリーズハイブリッドモード
エンジンを始動して発電開始。
その電力でフロントモーターを使い、FWDで走行。

◎スリップを感知すると
リヤモーターも使い、4WDで走行。

充電モード

家庭用のAC100V/AC200Vによる普通充電と、急速充電の3WAY充電システムを採用しています。



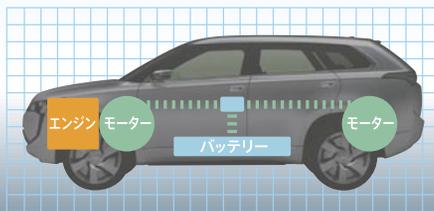
モーターによる走行がメイン、必要に応じてガソリンエンジンが発電および走行をアシスト。 電気自動車の航続距離を大きく伸ばしました。

2009年10月、三菱自動車は第41回東京モーターショーでEVの将来展開を具現化した2台のコンセプトカーを提案しました。その1台が、新開発の「三菱プラグインハイブリッドシステム」を搭載した、新世代クロスオーバー「MITSUBISHI Concept PX-MiEV」です。

モーター駆動による、クリーンな電気自動車の良さを最大限に活かしながら、もっと航続距離を伸ばすことはできないか。そんな発想から、従来のようにエンジン主体ではなく、あくまでもモーター主体の電気自動車としての走行をメインに、必要に応じてガソリンエンジンが発電、さらには走行をアシストするシステムを採用。航続距離を大きく伸ばしながら、これまでにな

い超低燃費を実現しました。

三菱自動車は、2009年7月より納車を開始した新世代電気自動車「i-MiEV」と、今回の東京モーターショーで発表した「三菱プラグインハイブリッドシステム」などのEV技術を頂点とした環境技術開発はもちろんのこと、人と地球が共生する持続可能な社会の構築を目指します。



下り坂などでは…モーターで発電

減速時: 回生モード

前後のモーターを使って発電し、駆動用バッテリーに充電。

給電モード<アウトドア>

ラゲッジスペース内のAC100Vコンセントにより、電力の車外利用も可能。アウトドアなどに便利です。

高速道路では…モーター&エンジンで走る

高速走行時: バラレルハイブリッドモード

フロントモーターの動力に加え、エンジン動力も利用して、FWDで走行。

◎スリップを感知したり、高速域で加速するとリヤモーターも使い、4WDで走行。

給電モード <スマートグリッド>

走行しない場合には、駆動用バッテリーに蓄えておいた電力を家庭へと供給することが可能。効率的な電力利用を推進する「スマートグリッド構想」にも貢献します。また、この駆動用バッテリーは、災害時や停電時などの非常用電源としても活躍します。





第41回東京モーターショー参考出品車

「i-MiEV CARGO (アイ・ミーブ カーゴ)」 i-MiEV CARGO

「i-MiEV CARGO」は「i-MiEV」をベースに、自由に使えるフリースペースを設定したコンセプトカーです。

走行中にCO₂を排出しない高い環境性能を持つ電気自動車ならではの長を生かしながら、ビジネスからプライベートまで、多彩なシーンでお客様のニーズに応える電気自動車としてご提案します。



PSA プジョー・シトロエン社と、電気自動車の開発供給に関する基本契約を締結

2009年9月、三菱自動車は、PSA プジョー・シトロエン社(以下、PSA)と新世代電気自動車「i-MiEV」の開発供給に関する基本契約を締結しました。

これにより、三菱自動車は欧州市場向け「i-MiEV」をベースとしてPSA 向電気自動車を開発し、2010年10月より生産、供給を開始します。

調印式でのPSA プジョー・シトロエン社バラン会長と益子社長



電動ごみ収集車に、電気自動車のバッテリーシステムを搭載

三菱自動車は、「i-MiEV」に搭載している「バッテリーシステム」*を、極東開発工業株式会社に供給し、ごみ収集車の車両後部のごみ圧縮装置を電気で駆動する「電動ごみ収集車」の新開発に協力しました。

現在、車両のエンジンを動力源としているごみ収集車の圧縮装置は、ごみの収集・排出作業を行う際に、常にエンジンを作動させる必要があります。「バッテリーシステム」を搭載した電動ごみ収集車は、作業時のCO₂排出量を従来に比べ約75%削減するなど、環境への負荷や騒音面での課題の解決に貢献します。

三菱自動車では、「i-MiEV」を2009年7月から販売していますが、同車に搭載しているコンポーネントを供与するのは今回が初めてのケースです。*バッテリーは、株式会社リチウムエナジージャパン製



i MiEV



JAHFA
2009~2010
CAR TECHNOLOGY OF THE YEAR
日本自動車殿堂 カーテクノロジーオブザイヤー

2009年10月、「i-MiEV」に搭載された車両統合制御システム「MiEV OS」が「2009～2010日本自動車殿堂カーテクノロジーオブザイヤー」を受賞しました。

2009-2010 日本カー・オブ・ザ・イヤー
特別賞 Most Advanced Technology
(モスト・アドバンスト・テクノロジー賞)

2009年10月、「i-MiEV」が2009-2010日本カー・オブ・ザ・イヤー 特別賞「Most Advanced Technology賞」(モスト・アドバンスト・テクノロジー賞)を受賞しました。

究極のエコカーとして街を走り出した、新世代電気自動車

2009年7月、三菱自動車は、神奈川県、郵便事業株式会社、および電力会社をはじめ、官公庁、自治体、法人の皆さまを対象に新世代電気自動車「i-MiEV(アイ・ミーブ)」の日本での納車を開始しました。2009年度中に約1,400台の販売を予定しています。

さらに、2010年4月からは個人のお客様向けに本格販売を開始し、2010年度中に国内で5,000台の販売を計画しています。



株式会社ローソンへの納車式で新Lawson社長へキーを渡す益子社長

ただいま 2010年度分のお申し込み受付中

三菱自動車では、2010年4月から、法人に加え個人の皆さまへの「i-MiEV」の販売を計画しています。2009年7月31日からお申し込みを受

付け、すでに全国で1,500台のお申し込みをいただいています。(10月18日時点)詳しくは、お近くの販売会社にてスタッフにおたずねください。

Q1 申し込みや購入の方法は？

2010年度はメンテナンスリースとなります。

EV導入期にあたり、新しい電気自動車を社会に出す責任として、「i-MiEV」のメンテナンスをEVの整備に習熟した三菱自動車の販売会社で行うこと、お客様に安心してお使いいただきたいと考えています。また、メンテナンスリースでは、電気自動車購入に伴う補助金の申請・受給手続きをリース会社で行い、お客様にご面倒をお掛けすることはありません。お申し込み受付に際しては、メンテナンスリースについて、またクルマの充電環境や、納期について販売会社にて確認の上、承ります。

Q2 申し込みの順番で納期が決まるの？

お申し込みの順番で生産を行う予定ですが、全国のお申し込み状況と、お客様が正式にご契約されるタイミングなどにより若干前後する可能性があります。正式のご契約については2010年度の政府補助金が決定される2010年4月以降となります。

来春、株主様向け「i-MiEV」試乗会開催予定 <http://www.ev-life.com/>

詳しい情報は、2010年1月5日より上記のサイトでご案内いたします。

エコカー減税対象車のラインアップ

三菱自動車では、2009年4月1日から始まった環境対応車の普及税制制度において対象車種を15車種へ拡大します。また、車種ごとの減税対象グレードも拡大し、皆さまのエコカー選びにお応えします。

主な減税対象車

i



50%
減税

グレード **Vivace(2WD)** 税軽減額 **22,300円**

PAJERO



50%
減税

グレード **エクシード
プレミアムエディション** 税軽減額 **131,200円**

Toppo



50%
減税

グレード **Limited(2WD)** 税軽減額 **19,400円**

EK-SPORT



50%
減税

グレード **X 4AT(2WD)** 税軽減額 **22,900円**

エコカー減税対象予定(2009年12月～)*

GALANT
FORTIS
1.8ℓ(2WD)



GALANT
FORTIS
SPORTBACK
1.8ℓ(2WD)



*掲載車両の外観は、実際の販売車両と異なる場合があります。

三菱自動車の対象車種など詳しくはお近くの販売店またはお客様相談センターへお問合せください。

カタログのご請求・お近くの販売店検索は…
三菱自動車 お客様相談センター



0120-324-860

月～金:9時～17時

土・日:9時～12時・13時～17時

を拡大

税軽減額は購入時の自動車取得税・重量税に対する軽減額です。

CHAMONIX



75%
減税

グレード シャモニー(4WD) 税軽減額 167,900円

OUTLANDER



50%
減税

グレード 24Gプレミアム(4WD) 税軽減額 98,600円

EK WAGON



50%
減税

グレード Limited(2WD) 税軽減額 19,400円

COLT



50%
減税

グレード Limited(2WD) 税軽減額 40,300円

(注) ●自動車取得税、自動車重量税の税軽減額は、オプションを含まない車両重量、メーカー希望小売価格をベースに試算しています。

また、上記に加え一部の登録車はグリーン税制に基づき自動車税が軽減されます。その他の対象グレードと減税額など、詳しくはお近くの販売店におたずねください。

●掲載の内容は2009年10月現在のものです。

新型車のご案内

2010年2月

新型コンパクトSUV投入予定!

軽量で低燃費、SUVならではの走破性をあわせ持った新開発のコンパクトSUVを投入いたします。



軽商用車の「黒(くろ)」シリーズを発売

軽商用車の3車種に、パーソナルユースにも向いた専用ボディカラー「ブラックマイカ」を採用した、特別仕様車「黒」シリーズを設定しました。

minicab

ミニキャブバン「黒バン」



MINICA

ミニカ「黒ミニカ」

minicab

ミニキャブトラック「黒トラ」



財務諸表(連結)

連結貸借対照表

科 目	当第2四半期 連結会計期間末 (平成21年9月30日現在)	前年度末 (平成21年3月31日現在)	科 目	当第2四半期 連結会計期間末 (平成21年9月30日現在)	前年度末 (平成21年3月31日現在)
(資産の部)	百万円	百万円	(負債の部)	百万円	百万円
流動資産			流動負債		
現金及び預金	172,088	167,841	支払手形及び買掛金	186,762	155,600
受取手形及び売掛金	84,924	89,607	短期借入金	199,963	223,026
商品及び製品	100,648	110,658	1年内償還予定の社債	-	25,600
仕掛品	25,153	19,174	その他	177,086	215,866
原材料及び貯蔵品	52,550	59,287	流動負債合計	563,812	620,093
その他	92,556	101,902	固定負債		
貸倒引当金	△6,018	△7,528	社債	200	200
流動資産合計	521,903	540,943	長期借入金	177,377	104,579
			その他	176,616	190,112
固定資産			固定負債合計	354,194	294,891
有形固定資産	420,588	439,936	負債合計	918,006	914,985
無形固定資産	14,533	16,436	(純資産の部)		
投資その他の資産	146,535	140,693	株主資本		
固定資産合計	581,657	597,066	資本金	657,355	657,350
資産合計	1,103,561	1,138,009	資本剰余金	432,666	432,661
			利益剰余金	△807,151	△770,750
			自己株式	△14	△14
			株主資本合計	282,855	319,246
			評価・換算差額等	△107,038	△105,795
			少数株主持分	9,737	9,573
			純資産合計	185,554	223,024
			負債純資産合計	1,103,561	1,138,009

資産合計：前年度末から344億円の減少

在庫圧縮によるたな卸資産の減少が主因。

負債合計：前年度末から30億円の増加

売上高減少に伴う未払金・未払費用の減少と、在庫調整一巡による生産・出荷促進のための仕入債務の増加が主な内訳。有利子負債は、シンジケートローンの実行などにより増加(241億円増)。

純資産合計：前年度末から374億円の減少

当第2四半期損失の計上が主因。

連結損益計算書

科 目	前第2四半期連結累計期間 (平成20年4月1日から 平成20年9月30日まで)	当第2四半期連結累計期間 (平成21年4月1日から 平成21年9月30日まで)	前年度 (平成20年4月1日から 平成21年3月31日まで)
	百万円	百万円	百万円
売上高	1,213,973	573,029	1,973,572
売上原価	1,006,063	502,089	1,663,121
売上総利益	207,910	70,939	310,451
販売費及び一般管理費	182,548	103,441	306,524
営業利益(損は△)	25,361	△32,502	3,926
営業外収益	7,544	7,876	7,603
営業外費用	12,051	9,563	26,455
経常利益(損は△)	20,854	△34,189	△14,926
特別利益	2,551	2,549	4,493
特別損失	2,971	2,605	43,284
税金等調整前四半期(当期)純利益(損は△)	20,434	△34,245	△53,717
法人税等合計	6,216	732	1,111
少数株主利益	1,446	1,426	55
四半期(当期)純利益(損は△)	12,772	△36,404	△54,883

連結キャッシュ・フロー計算書

科 目	前第2四半期連結累計期間 (平成20年4月1日から 平成20年9月30日まで)	当第2四半期連結累計期間 (平成21年4月1日から 平成21年9月30日まで)	前年度 (平成20年4月1日から 平成21年3月31日まで)
	百万円	百万円	百万円
営業活動によるキャッシュ・フロー	25,777	△2	△93,335
投資活動によるキャッシュ・フロー	△53,767	△5,071	△94,789
財務活動によるキャッシュ・フロー	△23,747	23,832	△4,983
現金及び現金同等物に係る換算差額	△2,236	△2,176	△13,793
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△53,973	16,582	△206,902
現金及び現金同等物の期首残高	360,902	154,666	360,902
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額	666	25	666
非連結子会社との合併に伴う現金及び現金同等物の増加額	-	73	-
現金及び現金同等物の四半期末残高	307,595	171,347	154,666

会社の概要 (平成21年9月30日現在)

社名	三菱自動車工業株式会社
本社	〒108-8410 東京都港区芝五丁目33番8号 TEL: 03-3456-1111 (大代表)
設立	昭和45年4月22日
従業員数	連結: 31,648名 単独: 13,805名 ※上記は休職派遣者を含み、執行役員および準社員は含みません。
資本金	657,355,059,926円
発行可能株式総数	9,961,597,000株
	(内訳) 普通株式 9,958,285,000株
	A種優先株式 438,000株
	B種優先株式 374,000株
	C種優先株式 500,000株
	D種優先株式 500,000株
	E種優先株式 500,000株
	F種優先株式 500,000株
	G種優先株式 500,000株
発行済株式総数	5,538,394,433株
	(内訳) 普通株式 5,537,956,840株
	A種優先株式 99,000株
	G種優先株式 338,593株
株主数	普通株式 413,269名
	A種優先株式 12名
	G種優先株式 4名

技術センター	岡崎地区 〒444-8501 愛知県岡崎市橋目町字中新切1番地 TEL: 0564-31-3100
	京都地区 〒616-8501 京都府京都市右京区太秦巽町1番地 TEL: 075-864-8000
	十勝研究所 〒080-0271 北海道河東郡音更町字長流枝22番1 TEL: 0155-32-7111
製作所	名古屋製作所 岡崎工場(組立) 〒444-8501 愛知県岡崎市橋目町字中新切1番地 TEL: 0564-31-3100
	水島製作所(組立) 〒712-8501 岡山県倉敷市水島海岸通一丁目1番地 TEL: 086-444-4114
	パワートレイン製作所 京都工場(エンジン) 〒616-8501 京都府京都市右京区太秦巽町1番地 TEL: 075-864-8000
	パワートレイン製作所 滋賀工場(エンジン) 〒520-3212 滋賀県湖南市小砂町2番1 TEL: 0748-75-3131
	パワートレイン製作所 水島工場(エンジン、トランスミッション) 〒712-8501 岡山県倉敷市水島海岸通一丁目1番地 TEL: 086-444-4114

役員 (平成21年9月30日現在)

取締役

西岡 喬*	取締役会長 (三菱重工業株式会社相談役)
益子 修*	取締役社長
前田 真人*	取締役副社長
市川 秀*	常務取締役
春成 敬	常務取締役
相川 哲郎	常務取締役
菊池 一之	常務取締役
青砥 修一	取締役
松本 伸	取締役
太田 誠一	取締役
黒田 浩	取締役
上杉 雅勇	取締役
佐々木幹夫	取締役 (三菱商事株式会社取締役会長)
矢嶋 英敏	取締役 (株式会社島津製作所相談役)

監査役

氏田 憲秀	監査役(常勤)
村本 修三	監査役(常勤)
三木 繁光	監査役(株式会社三菱東京UFJ銀行相談役)
岡本 行夫	監査役(株式会社岡本アソシエイツ代表取締役)
河本雄二郎	監査役(三菱重工業株式会社取締役常務執行役員)

- (注) 1. *印は代表取締役を示しています。
2. 取締役 佐々木幹夫氏および矢嶋英敏氏は、会社法第2条第15号に定める社外取締役です。
3. 監査役 三木繁光氏、岡本行夫氏および河本雄二郎氏は、会社法第2条第16号に定める社外監査役です。

株主メモ

■ 事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
■ 定時株主総会開催日	6月
■ 同総会議決権行使株主確定日	3月31日
■ 期末配当金支払株主確定日	3月31日
■ 中間配当金支払株主確定日	9月30日
■ その他の基準日	上記のほか必要のある場合は、取締役会の決議によりあらかじめ公告して設定します。
■ 公告の方法	電子公告により行います。ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは東京都内において発行する日本経済新聞に掲載して行います。 (公告掲載アドレス) http://www.mitsubishi-motors.com/KOUKOKU/
■ 1単元の株式数	普通株式は1,000株 優先株式は1株
■ 証券コード	7211
■ 株主名簿管理人・特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
■ 同事務取扱場所	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
■ 郵便物送付先・電話照会先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL:0120-232-711 (フリーダイヤル)

※住所変更、単元未満株式買取請求、その他各種お手続き等のご請求について

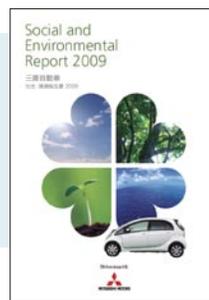
1. 証券会社等の口座をご利用の場合・・・お取引の証券会社等にお問合せください。
2. 「特別口座」に記録されている場合・・・三菱UFJ信託銀行株式会社(TEL:0120-232-711)にお問合せください。

<お知らせ> 当社は、2009年10月29日開催の取締役会において、大阪証券取引所に上場している当社普通株式について、上場廃止申請を行うことを決議しました。引き続き、東京証券取引所には上場を継続いたします。

社会・環境への取り組み

当社は、企業の経済活動、社会活動、環境活動をバランスよく行うことが、21世紀の企業にとって最も重要であり、それが企業の社会的責任であると考えています。当社の取り組みをより一層ご理解いただくため、以下のウェブサイトをご活用ください。

www.mitsubishi-motors.co.jp/social/



三菱自動車 社会・環境報告書
2009

『社会・環境報告書』は、当社ウェブサイトからダウンロードいただけます。

株主通信 ROUTE

三菱自動車工業株式会社
平成21年度(2009年度)中間のご報告

広報部 平成21年12月4日発行
〒108-8410 東京都港区芝五丁目33番8号
TEL:03-3456-1111 (大代表) <http://www.mitsubishi-motors.co.jp>